



2024年11月25日

日 本 銀 行

中央銀行デジタル通貨に関する

パイロット実験における基本的な視点

(中央銀行デジタル通貨に関する連絡協議会 (第8回) における開会挨拶)

日本銀行理事

加藤 毅

本日は、中央銀行デジタル通貨（CBDC）に関する連絡協議会にご参加頂き、誠にありがとうございます。

前回会合から半年ほど経ちました。この間も、私どもが進めているパイロット実験、とりわけCBDCフォーラムの運営に関して、皆様から引き続きご支援、ご協力を頂いておりますことに対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、本日の協議会の主な目的は、パイロット実験の検討状況等について、意見交換を行うことだと承知しています。そこで、私からは、日本銀行がパイロット実験を進めるに当たって特に意識している3つの基本的な視点について、CBDCフォーラムで行われている議論も踏まえてご説明させていただきます。

第1の視点は、「垂直的共存」、すなわち日本銀行と仲介機関の役割分担を適切に図ることです。仲介機関が日本銀行と利用者の上に立つ「二層構造」の下で、CBDCの発行・流通・償還を安全かつ効率的に行うとともに、イノベーションを促進して新たな決済サービスが提供可能となるような仕組みを上手く構築していくことがポイントとなります。この点、CBDCフォーラムでは、CBDCシステムと外部インフラ・システム等との接続や追加サービスの提供など、二層構造の下での役割分担に関連した議論が行われています。

第2の視点として、「水平的共存」、すなわちCBDCと他の決済手段との適切な役割分担を図ることも重要だと考えています。決済システム全体の安定性・効率性を高める観点から、CBDCが民間決済サービスをサポートする仕組みを構築することがポイントとなります。この点、CBDCフォーラムでは、CBDCと他の決済手段の相互運用性に関連した議論が始まってい

ますので、今後の議論の深まりに期待しているところです。

第3の視点は、プライバシーの確保に関する国民の懸念への対応です。AML/CFTなど公共政策上の要請に応えつつ、安心して利用できる仕組みを構築する必要があります。この点、CBDCフォーラムでは、既存の資金決済サービスにおけるKYC、AML/CFTおよびユーザー認証・認可の実施方を整理したうえで、CBDCシステムにおけるKYCとユーザー認証・認可のあり方に関する議論が行われています。

以上、日本銀行がパイロット実験を進めるに当たって特に意識している3つの基本的な視点についてお話しさせていただきましたが、ご案内のとおり、日本銀行では、パイロット実験の中で実験用システムの構築と検証も行っております。そこで得られる知見については、皆様を始めとする幅広い関係者にも還元し、さらにご意見をいただくことを通じて、より多面的な検討を行ってまいりたいと考えております。

最後になりますが、今後とも私どもの取り組みへのご協力をお願いして、私からのご挨拶とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

以 上